

鶏さんと英夫さんのお話

武田雪夫

さあ、これは、にはざり鶏さんに英夫さんのお話ですよ。

英夫さんのお家うちの鶏さんは、毎日まいにちたまじ卵を生うむんですつて。

何羽もく、たくさんるますから、ごの鶏か、それは解わかりませんが、一日いちにちに一つは、ごんなこごがあつても、きつこ生うむのです。

ですから、卵たまごの大だいすきな英夫さんは、まい朝、ご飯なまに生の卵をかけて食たべるお約束やくそくになってゐました。

ええく、昨日きのうも食たべましたよ。それから、一昨日おとといも食たべましたよ。その前の日も食たべました。

ところが、今朝けさは、きつこしたのでせうね？い、つも小ちひさなおごんぶりの中にコロンこ入いつてゐる、あの卵たまごが出てゐないのです。

英夫さんは、大きな聲で、

「きつこしたの、お母さん。今日は、卵たまごはないの？こ、お聞きしました。

するこ、お母さんがおつしやいました。

「あのね、英夫さん。卵は、昨日から、一つも生まないのですよ。今日も、まだ生まないのです。」

さあ、英夫さんは、不思議でなりません。

「どうして生まないのでせうね。お母さん。」

お母さんは、お首をおふりになりながら、

「さうね、どうしたのでせうね。——英夫さんが、鶏をおぎろかしたのではないこと？」お聞きになりました。

さう言はれるこ英夫さんは、少しの間かんがへてゐましたが、やつこ思ひ出しました。

英夫さんは、大きな聲で言ひました。

「あゝ、ある、ある、ありますよ。」

するこ、お母さんは、英夫さんの頭にお手々をおいて、

「さう。みんなこごをして、おぎろかしたのです？みんな、お母さんにお話してごらんさい。」とおつしやいました。

「あのね、さうく、鶏のお家の前で、バンザイ、バンザイって、日の丸の旗をふりまはしたのです。」
するこ、お母さんは、びつくりして、

「まあ、そんなことをしては、だめですよ。鶏さんはね、おろろろ、卵を生むことを忘れてしまふのですもの。」とおつしやいました。

それでは、英夫さんが悪いのですね。

しかたがありませんから、英夫さんは、今日は卵なしで、ご飯をすませました。

それから英夫さんは、すぐに、お庭の方へ出て行きました。そして鶏さんのお家の前へ行く、小さなく
聲で言ひました。

「ごめんよ、鶏さん。もう、きつとおどろかさなから、また、毎日、卵を生んで下さいね。」

さう言ふさ英夫さんは、もう安心して、元氣よくむかうへかけ出して行つてしまひました。

さあ、それでは鶏さんたちは、また明日あしたから毎日、おいしい卵を生むでせう。

だつて鶏さんたちは、英夫さんの言つたことが解つたやうに、

「ココ、ココ、ココ……。」と、お返へんじをしてゐましたもの。

はい、それでは、これで、鶏さんさ英夫さんのお話はおしまひです。